

令和4年度 山添村立奈良県立山辺高等学校山添分校 学校評価総括表(年度末報告)	
【高等学校用】	
年度	令和4年度(中期計画1年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	農業科は山添村の気候風土に即した農業、家政科は村の産業であったホームスパン(羊毛手織りの技法)を授業に取り入れ、少人数教育の良さを生かし、徳・体・知の調和がとれ、地域社会で活躍できる人材を育成します。
年度重点目標	1 主体的な学びによる基礎学力の充実と専門的な能力の向上 2 豊かな心と自主的・自立的な態度の育成および進路意識の向上による進路の実現 3 保護者や地域と連携した安心・安全な開かれた学校づくり

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針(スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	本校では、入学者選抜を経て、次のような生徒を受け入れます。 1 本校の使命や教育方針を理解する生徒 2 自己の能力を磨き、創造性を発揮できる生徒 3 人や自然を愛する豊かな心をもった生徒 4 人間尊重の精神をもち、社会貢献の意識が高い生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	本校では、農業科や家政科の特性を生かし、チャレンジ精神に満ち、どんな困難にもくじけず、正々堂々と生きる人間を「ゆっくり、じっくり、たっぷり」育てる教育目標として、その実現のために次の教育を行います。 1 生徒一人一人の興味や関心に応じた科目選択ができるカリキュラムを編成します。 2 発達段階に応じて分かる授業を目指し、基礎的、基本的指導及び必要な支援を行い、個に応じた教育の充実を図ります。 3 社会で自立して生きていく力を身につけられるよう、キャリア教育の充実を図ります。 4 基本的な生活習慣や人間としてつべき規範意識を身につけ、主体的に判断して行動できる力を育てます。 5 部活動はじめ、すべての生徒の活動を活性化し、ルール・マナーの習得、自主性の育成、リーダーシップの育成、達成感による自己実現や自尊感情の醸成を図ります。
	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	本校では、次の資質や能力を身に付け、74単位以上の単位数を習得した生徒に卒業を認定します。 1 深い思考と豊かな創造力を基盤に、社会に貢献しようとするができる。 2 自己の能力を磨き、卒業後も学び続けることができる。 3 異文化や異領域への共感と理解を深め、自己の見解を論理的に主張することにより、社会で活躍できる。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和4年度末の目標値等(C)	令和4年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	健康的な生活習慣の向上	保健授業や保健だよりによる知識の向上	朝食摂取率90%以上	毎日朝食を摂取する生徒は46%であった。	朝食の重要さを周知できなかったため、食育の講演などを年間計画に組み入れ、実施したい。	朝食が摂取できない原因把握と生活習慣の改善のための指導が必要である。	朝食が摂取できない原因把握のため、アンケートを行う。その結果をふまえ、生活習慣改善に関する働き掛けを保護者や生徒に行う。
	体力の向上	部活動の活性化と体力向上に根ざした体	スポーツテストの結果が前年度より向上した生徒が70%以上	前年度より向上した生徒は73.5%であった。	生徒たちの体力を向上することが出来た。引き続き部活動の活性化と体力向上をめざす。	更なる向上を期待する。上記の生活習慣の向上にも影響すると考えられる。	生徒の体力向上に向けた生活習慣の改善や行事を工夫する。引き続き部活動の活性化と体力向上を目指す。体力向上に向けた生活習慣の改善のために、個別・集団指導や家庭と連携することで行っていく。
	健康への意識の向上	保健授業や保健だよりによる知識の向上	生活習慣についてのアンケート調査前年度比3%向上	睡眠時間が十分と感じている生徒は6%向上した。	睡眠においては改善傾向にある。他の項目も改善していけるように、来年度も健康の知識の向上と啓発を行っていく。	基本的な生活習慣の目標を自分自身で考えさせる。早寝早起きや運動なども取り入れる。	運動、食事、睡眠の3つの重要性や関連性について保健体育部が中心となり、家庭と連携して学校教育全体で指導を行っていく。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	授業改善	新学習指導要領に対応した授業改善	生徒の授業満足度の平均70%以上	「授業について満足しています」にあてはまる生徒は29%、どちらかというとはまる生徒も含め85%であった。	教員の授業改善や熱意は伝わっているため、次の段階(成績向上や資格取得)を目指す。	「授業がおもしろい」、「分かった」と実感できる場面を増やす。	授業研究を頻繁に行い、各教員が研修することや教員間で共有することで、授業力を高める。また、授業力を高める研修に積極的に参加する。
	学習意欲の向上	定期的な授業研究による授業力向上	学習意欲に関する項目70%以上	「学習意欲が高まった」にあてはまる生徒は29%、どちらかというとはまる生徒も含め70%であった。農業科の実習については、「学習意欲が高まった」にあてはまる生徒は68%、どちらかというとはまる生徒も含め92%であった。家政科の実習については、「学習意欲が高まった」にあてはまる生徒は50%、どちらかというとはまる生徒も含め80%であった。	意欲は高まって次の資格取得等に繋がっていない部分がある。	学習意欲を高めるためには、生徒との対話が重要であり、教員も対話を意識する必要がある。	放課後等、生徒が学習したり、相談ができるような環境づくりをしていく。
	オンライン教育への対応	ICTの活用を含めた教員の能力向上	教員の情報活用能力70%向上	教員間に差はあるが、78%の教員が「概ね達成できた」と回答した。	個人間の差を埋めるため、研修の実施等をしていく。	ICT教育は重要で、少人数だから個人差をなくす指導が必要である。外部講師による研修を充実させる。	外部講師の研修を定期的に実施し、現在のコンピュータ環境でできる最大限のICT教育を模索する。
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	第4学年での課題研究(インターンシップ)における出席率の向上	担任と事業所との連携による、本人に対する継続的な動機づけの実施	課題研究(インターンシップ)出席率90%以上	第4学年の生徒全員が1年間職場体験に参加し、特別な事情を除き97%の出席率であった。	体調管理など自己管理を徹底させる。	体調管理等の自己管理の充実と生徒の前向きな意識は、たいへんうれしい。	ホームルームの時間等を活用し、体調管理や時間管理の大切さを指導する。特に第4学年で実施する課題研究で成果を確認させる。また、第1学年から第3学年までのインターンシップ参加率の向上に努める。
	山添村企業説明会参加事業所の拡充	説明会に参加可能な事業所の新規開拓	参加事業所3社以上	新規4社の参加があった。	課題研究や就職と結びつけられるよう更に拡充していきたい。	広報活動による新規企業の開拓と就職に結びつくように生徒の意識を向上させる。	生徒のニーズにあった就職先の開拓をしなから、生徒の更なる意識の向上を目指す。
	キャリア教育(労働意欲の向上とマナー習得)の推進	外部講師の開拓と講演会の実施時期	外部講師による講演会の年度1回の開催	キャリア教育講習会をのべ3回実施。	卒業生からの講話も実施したい。	卒業生の体験談を聞く機会を設定していただきたい。講習会をしたことによる効果を考えていただきたい。	生徒の意見を聞くなどして、講演会の内容を精査していく。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	幅広い委員の選択と分析方法の研究	学校運営協議会の年度3回の開催	年度3回の開催することができた。	地域の住民の協力を得て、活発な会議ができた。	更なる幅広い意見交換と今後について発展的に進めてほしい。	コミュニティスクールで協議した内容を地域住民に発信し、山添分校の教育活動を認知してもらおう。
	通学路清掃(グリーン活動)の自主的な参加	通学路清掃を月1回実施し、全校生徒に向けて参加を働きかける。	自主的に参加する生徒が全生徒の5%以上	自主参加する生徒が徐々に増え、全生徒の7%になった。	やらされている感覚がなくなり、協力してみんなで作る意識が高まる。	地域の人の意見を聞くなどして、ボランティア精神をさらに植え付けてほしい。生徒会主体の計画を考えてはどうか。	生徒会主体として活動に参加し、地域に貢献できる人物を育みたい。
	地域と連携した交通安全等の催しの実施	生徒会活動の充実としてとらえて実施	生徒会が主となって年度2回の開催	コロナ禍のため今年度は実施することができなかった。	年間計画に組み入れ、実施したい。	かわいい小物を楽しみにしています。交通安全週間を活用するなど、計画的に進めていただきたい。	年間計画の中で、生徒会活動としてより一層充実を回す。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育学習資料の活用	「なかまとともに」を活用したLHRの実施	「なかまとともに」を活用したLHRの実施	生徒の実態に合わせ、人権作文や人権動画などを資料として使用していた。中には人権作文を書くためにあたって、「なかまとともに」を活用する学級があった。	年間計画に組み入れ、実施したい。	「なかまとともに」の更なる活用と山添村人権教育推進協議会との連携も考えてみる。	人権教育学習資料の周知を行い、生徒の実態に合わせた教材を活用していく。
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進(卒業までのいじめ全件追跡、いじめを発見した場合適切に介入すると答えた生徒の割合70%以上)	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進(卒業までのいじめ全件追跡、いじめを発見した場合適切に介入すると答えた生徒の割合70%以上)	いじめを発見した場合、適切に介入すると答えた生徒の割合は56%であった。	目標達成70%に及ばなかった。いじめを発見した場合の対応の仕方を啓発していきたい。	達成目標はあくまでも100%。見て、聞いて、対策することが大切。見てないふりをさせない意識が大切である。	ロールプレイングなどを取り入れ、実際に有り得る状況を設定し、生徒自らがどのように対応をするべきなのか、主体的に考える機会を設ける。
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の実効性ある活用	学期ごとに対象となる生徒の状況を組織的に確認	学期ごとに対象となる生徒の状況を組織的に確認	学期末の会議で情報共有できた。	職員全体で支援生の把握ができた。	山添分校は、他校より優れている。今後も定期的に情報共有する時間を確保してほしい。生徒の心にも浸透する教育をお願いする。	更なる円滑な生徒の情報交換に加え、保護者の認識を共有するためにもデータベースを活用し、日々更新し、確認できるようにする。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

「先生方には日頃から熱心にご指導いただき、生徒たちも心を開いている様子があり感動を覚えます。すべてにおいて向上していると思います。山添分校は地域と共にある学校として頑張っておられます。」とコメントをいただいた。しかし、コロナ禍で村や学校の行事は縮小しており、長年続けてきた「ふれあいまつり」や「収穫祭」など生徒の発表の場や活躍する場を復活することも期待されている。日々の挨拶など、生徒と地域住民が違和感なく触れ合うことができれば、双方にとって良いことだと考える。また、地域に開かれた学校をめざし、野菜苗販売の時などに、学校の実習内容を発表や紹介などを行ったらさらに良い。学校の取組についてホームページを活用して更に発信する。また、「TEAM山添分校ニュース」の充実により、成長している学校の様子や生徒の活動の様子を村民に拡充する必要がある。「本校に入学してよかったと感じている」にあてはまる生徒は28%、どちらかというとはまる生徒も含め63%であった。「本校に入学させてよかったと感じている」にあてはまる保護者は61%、どちらかといえはあてはまる保護者も含め100%であった。
--